

研究主題

協調して課題解決を目指す生徒の育成

～協働的な学習活動を通して～

Ⅰ 主題設定の理由

「主体的・対話的で深い学び」の実現を、多様な特性を有する全ての子供に対して実現していくことが「個別最適な学び」の目指すものである。一方で、集団の中で個が埋没したり孤立したりすることは避ける必要があり、「個別最適な学び」は「協働的な学び」との一体的充実が不可欠である。また、これを、単元などの一定の時間・内容のまとまりの中で計画することで実現していくことが重要である。

—参考:「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』(文科省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室)—

昨年度の研究において、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」自体が目的化されていないか、つまり、本来の目的である「主体的・対話的で深い学びを通じた資質・能力の育成という視点を見失っていないか、という反省があった。そこで、本来の目的にもう一度立ち返る必要があると考える。

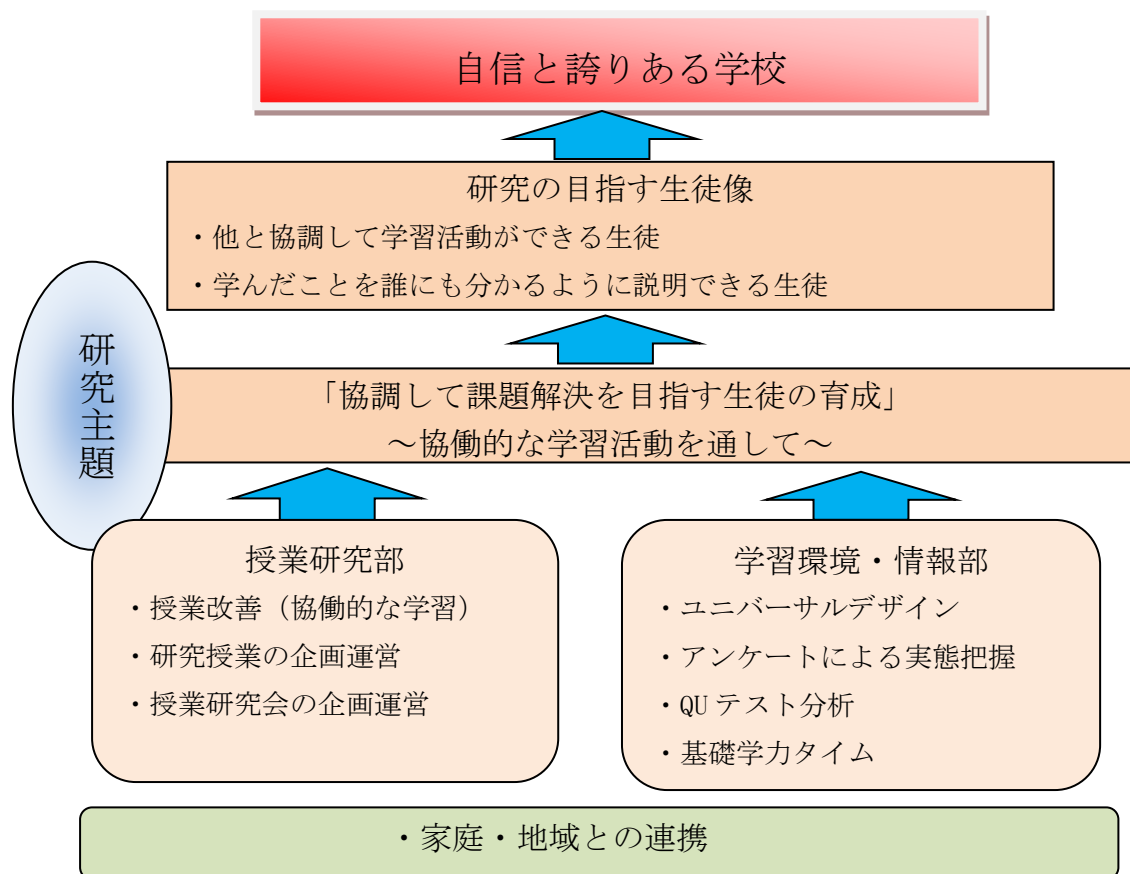
本校の生徒は素直で活発な生徒が多く、授業態度も積極的である。しかし、基礎学力が身に付いていない生徒や、集中することや話を聞くことが苦手な生徒も多い。このような多様な特性を有する全ての子供に対して「主体的・対話的で深い学び」を実現するための単元計画のための視点や、特別支援教育の視点から、授業改善についての研究を進めたい。

これらの研究を通して、本校の学校教育目標「豊かな心をもつ生徒を育成する」「確かな学力をもつ生徒を育成する」「心身ともにたくましい生徒を育成する」の達成に迫りたい。

2 めざす生徒像

- ① 他と協調して学習活動ができる生徒
- ② 学んだことを誰にも分かるように説明できる生徒

3 研究構想図



4 研究内容

(1) 各教科による授業改善

- ・生徒が主体的に取り組むことができる単元計画
- ・単元計画の中の協働的な学習活動の位置づけ
- ・「話したり・書いたり」と学んだことを説明する活動の奨励。

(2) ユニバーサルデザインに基づく、より良い学習環境と集団力の向上

- ・教室や校舎内の掲示物の配置
- ・学習規律の見直し
- ・生徒の基礎学力向上のための手立て

(3) 家庭との連携

- ・メディアコントロール
- ・家庭学習習慣の確立

5 年間計画

月	内 容
4月	研究主題・研修計画の確認、国・県学力テスト実施、学力向上プラン作成
5月	組織編成・各部の活動 → 共通実践の確認・QU テスト実施
6月	QU テストの分析(各学年)
7月①	各部の活動(1学期のまとめ)
7月②	県学力調査結果分析・2学期からの研究授業について
8月9日	ICT スキルアップ研修
9月	各部の活動 → 共通実践の確認
9月～	研究授業 1人1回実施
11月	QU テスト実施
12月	QU テストの分析、各部の活動 → 活動報告(2学期のまとめ)
1月	各部の活動
2月	年間の活動反省
3月	年間のまとめ・次年度に向けて